

小中一貫教育校を導入することによる効果(施設の形態別)

平成26年度「小中一貫教育校の在り方検討会議 作業部会 作成資料」(神奈川県)

	教育課程及び指導内容等について	学校の組織・運営等について	地域コミュニティとの関係について
共通	<p>「学び」の系統性(カリキュラム編成)が確保される。 指導内容が継続的になり中1ギャップの解消につながる。 中学校への進学に不安を感じる児童が減少する。 小学校教職員の間で基礎学力保障の必要性に対する意識が高まる。</p>		<p>私たちの地域の学校(9年間)という愛着心が地域に生まれる。 運動会や文化的行事、地域行事等が小・中学校で同時に開催され、9年間を見通した学びや子どもの成長を目にすることで、学校への信頼感が増す。</p>
施設一体型	<p>小中合同の打合せを含めて、校種間を越えた指導体制が日常的に取りやすい。 インクルーシブの視点を持ち9年間見守ることができる。 総合的な学習の時間など内容や学び方について校種間を越えて継続的・発展的な指導が容易。 児童・生徒が休み時間や登下校を含めて日常的に関わることで、下級生(小学生)は自分の成長について見通しを持ち、上級生(中学生)は自覚と下級生への思いやりを持つことで自己有用感の醸成につながる。 移動しやすく、時間の有効活用により、学習の効率が上がり、高い学習効果が得られる。 児童・生徒の生活や学習の様子が共有しやすく、系統的なプログラムが立てやすい。 異学年合同の行事等が実施しやすい。 中学校教員によるより専門的で系統的な指導が行われる。 共通の指導方針のもと、ゆとりを持った教育活動が行われる。 小学校のクラブ活動、中学校の部活動が、小中教員の協力のもとで実施できる。 一体感のある教育環境のもと、子どもの成長を実感しやすい教員は、義務教育9年間に責任を持つという意識を持つことができ、児童・生徒は9年間を過ごす学校という連帯感が育まれる。 小学校のよさ、中学校のよさを互いに目にする機会が増え、指導力の向上が図られる。</p>	<p>管理職等の削減や教育施設・設備(教材・教具、備品や消耗品等)の共有や整備が図りやすく、教育資源のより効果的な配分ができる。 小規模校においては、日常生活から活性化が図られる。 乗り入れ授業を行う際の時間割が編成しやすい。</p>	<p>防災・防犯等の引取り訓練等が一体化するので保護者の負担が軽減する。</p>
施設隣接型	<p>校種間を越えた指導体制は可能である。 総合的な学習の時間など内容や学び方について継続的・発展的な指導が可能 児童・生徒が普段から関わることで、下級生(小学生)は自分の成長について見通しを持ち、上級生(中学生)は自覚と下級生への思いやりを持つことで自己有用感の醸成につながる。 連携を進める上での時間的・物理的ロスが少ない。 行事等が実施しやすい。 中学校教員によるより専門的で系統的な指導が行われやすい。 共通の指導方針のもと、ゆとりを持った教育活動が行われやすい。 小学校のクラブ活動、中学校の部活動が、小中教員の協力のもとで実施されやすい。 小中合同の授業や行事、交流を通して、一体感のある教育環境のもと、連帯感が育まれやすい。 小学校のよさ、中学校のよさを互いに目にする機会が増えやすく、指導力の向上が図られやすい。</p>	<p>教育施設・設備(教材・教具、備品や消耗品等)の共有等により、教育資源の効果的な活用ができる。 小規模校においては、活性化が図られる。 既存の校舎をそのまま活用することができる。</p>	<p>防災・防犯等の引取り訓練等を連携して行えるので保護者の負担が軽減する。 今ある地域コミュニティを活かすことができる。</p>
施設分離型	<p>総合的な学習の時間など内容の継続的な指導が可能 小中合同の授業や行事、交流を通して、一体感のある教育環境を作ることで、連帯感が育まれやすい。 小学校のよさ、中学校のよさを互いに意識することで、指導力の向上が図られやすい。 実状にあわせた連携に特化できる。</p>	<p>小規模校においては、行事等で活性化が図られる。 既存の校舎をそのまま活用することができる。</p>	<p>防災・防犯等の引取り訓練等を連携して行えるが、引き取りはそれぞれの学校となる。 今ある地域コミュニティを活かすことができる。</p>